



説教	つまずかない人は幸いである	丸 徹	1
教会の課題	靖国神社問題特別委員会設置50年に寄せて	小塩 海平	2
旧約聖書に聴く	現代に何を語るか ダニエル書 (7)	古賀 清敬	3
信仰問答を学ぶ	歴史の中の信仰問答 (6)	渡辺 信夫	4
教会、この地とともに	⑩ 島原教会 島原から世界に向かって -かくの如く燃え立ち候-	井上 安彦	5
三浦綾子の生涯と作品について	(6) 愛の証しの文学 『塩狩峠』 -あほうになって生きる幸い-	森下 辰衛	6
こいのにあ	美深伝道所開設式	岡田 由子	7
	札幌桑園教会牧師就職式	稲岡 尚	7
	伊達教会牧師就職式	布川 一郎	8
	小樽シオン教会牧師就職式	山村 元	8
	南柏教会牧師就職式	高谷 史朗	9
	秋田教会牧師就職式	小泉 典彦	9
	宝塚宍布教会伝道師就職式	音在 静子	10
井上一央先生追悼文	孤高を楽しみ、ひたむきに生きた伝道者	北村 一幸	10



つまずかない人は幸いである

「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」(ルカによる福音書7章19節)

まる 丸 とおる 徹

洗礼者ヨハネは、獄中にありました。彼は、主イエスのところに二人の弟子を送って次のように言わせました。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」「来るべき方」とは、「来りつつあるメシア・救い主」という意味です。ヨハネは、ルカ福音書3章16～17節などにもありますように、メシア・救い主というのは、民衆に対して神の戒めを守り、悔い改めるように促し、彼らを厳しく裁く裁判官であり、イスラエルをローマ帝国の支配から救い出す政治的な存在だと考えていました。しかし、弟子たちから伝えられる主イエスに関する報告によると、どうもヨハネの考えていたメシア・救い主のイメージと主イエスの行っておられることとの間にズレ・違いが認められるのです。そのズレ・違いにとまどったヨハネは、「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか」との質問を弟子たちを通して主イエスにしたのです。しかし、主イエスという御方は、ヨハネが期待したような政治的な指導者、裁判官などではありませんでした。主イエスはむしろ、ヨハネによる福音書12章47節にもありますように、「わたしは…裁かない」とおっしゃった御方であり、低いところに降って来られ、貧しい人、社会的に弱い立場にいる人たち、罪人と呼ばれて社会からつまはじきにされている人たちに寄り添い、その人たちを愛し抜かれ、そのために遂には十字架にかけられた御方なのです。しかし、洗礼者ヨハネは、そのような低きに降られた主イエスにつまずいてしまったのです。「低きに降られるメ

シア・救い主」などヨハネには考えられないことだったのです。しかし、「このヨハネの姿は、わたしとはまったく違う」とはっきりと断言できる人はいるのでしょうか。わたしたちは、しばしば自分に都合のよい救い主の姿を、主イエスに重ねてしまっているということはないでしょうか。経済的なことや自分の健康のことなどのいわゆる御利益をかなえてもらえる御方としてのみキリストをとらえ、その願いがかなわなくなってしまったら、いらだち、信仰がゆらいでしまい、あげくの果てには信仰から離れてしまうということが往々にして起こってくるのです。もちろん、そういう御利益的な願いを祈り求めてはいけないということではありません。そういう御利益を求める祈りも神様は聴いてくださっているはずですが、しかし、神様は、なによりもわたしたちが聖書に記された神様の御言葉にまっすぐに聴き、その教えに従っていくこと、神様を愛し、隣人を愛することを望まれ、お喜びになる御方です。主イエスによって語られる神様の御言葉は、心地よいものばかりでなく、ときには耳が痛い言葉でもあります。しかし、それらのことは、わたしたちが救われて生きる者として必要なことなのです。主イエス・キリストにつまずくことなく生きる者は幸いなのです。そこにこそ真の救いがあると主はわたしたちにおっしゃっています。そのことは狭き門ですが、その門に入れと主は招いておられます。わたしたちは、「わたしにつまずかない人は幸いである」との主の御言葉にお応えして、どこまでも神様にお従いしてまいりましょう。(苫小牧教会牧師)